

サケ稚魚放流情報 No. 4



平成22年4月13日

岩手県水産技術センター

漁業資源部

TEL: 0193-26-7915

FAX: 0193-26-7920

E-mail: CE0012@pref.iwate.jp

さんりく基金 北里大学との共同研究

表面水温は、平年よりも1～2℃低く、餌環境は、宮古湾を除き平年並～少ない状況にあり、小型のプランクトンが優占しています。

適水温期に入り、大型のプランクトンも出現しておりますので、稚魚の飼育密度とサイズに注意しながら適切に放流を進めてください。

1 表面水温

4月5、6日の平均表面水温(図1)は、宮古湾6.1℃(前年同期9.7℃、同期7年平均8.2℃)、山田湾6.9℃(9.1℃、7.5℃)、唐丹湾5.1℃(10.6℃、7.8℃※5年平均)、越喜来湾5.1℃(9.5℃、7.3℃)、大船渡湾6.1℃(9.5℃、8.3℃)でした。また、定地水温情報(いわて大漁ナビ)のデータを取りまとめると(図2)、4月上旬の野田湾で平均**5.6℃(H7～H21平均6.9℃)**、山田湾**5.4℃(6.7℃)**、船越湾**5.6℃(7.0℃)**、釜石湾**5.5℃(6.7℃)**、大船渡湾**5.4℃(6.8℃)**、広田湾**5.4℃(6.8℃)**でした。4月9日現在、野田湾**5.83℃(前年8.71℃)**、山田湾**5.58℃(7.21℃)**、船越湾**5.74℃(8.71℃)**、釜石湾**5.60℃(7.18℃)**、大船渡湾**5.83℃(6.98℃)**、広田湾**6.07℃(7.22℃)**と、全域で平年よりも1～2℃低い傾向にあります。

2 動物プランクトン沈殿量

4月5、6日のノルパックネット鉛直20m曳きによる動物プランクトンの沈殿量(図1)は、宮古湾 4.02ml/m³(前年同期0.36ml/m³、同期7年平均1.08ml/m³)、山田湾 0.46ml/m³(0.43ml/m³、0.67ml/m³)、唐丹湾 0.25ml/m³(1.48ml/m³、1.37ml/m³※5年平均)、越喜来湾 0.72ml/m³(2.84ml/m³、1.14ml/m³)、大船渡湾 1.08ml/m³(0.53ml/m³、0.91ml/m³)となりました。種組成では、小型の *Pseudocalanus*(図C)が優占するとともに、大型の *Neocalanus*(図A)の出現数も多くなりました。プランクトンは宮古湾を除き平年並～少なく、小型のプランクトンが優占している傾向が継続していました。

3 その他

水温およびプランクトンの出現状況から、親潮の影響を強く受けていると考えられます。毎日の水温情報は、今年新しく生まれ変わりました「いわて大漁ナビ」をご覧ください。

いわて大漁ナビ : <http://www.suigi.pref.iwate.jp/> (PC)

: <http://www.suigi.pref.iwate.jp/m/> (携帯)

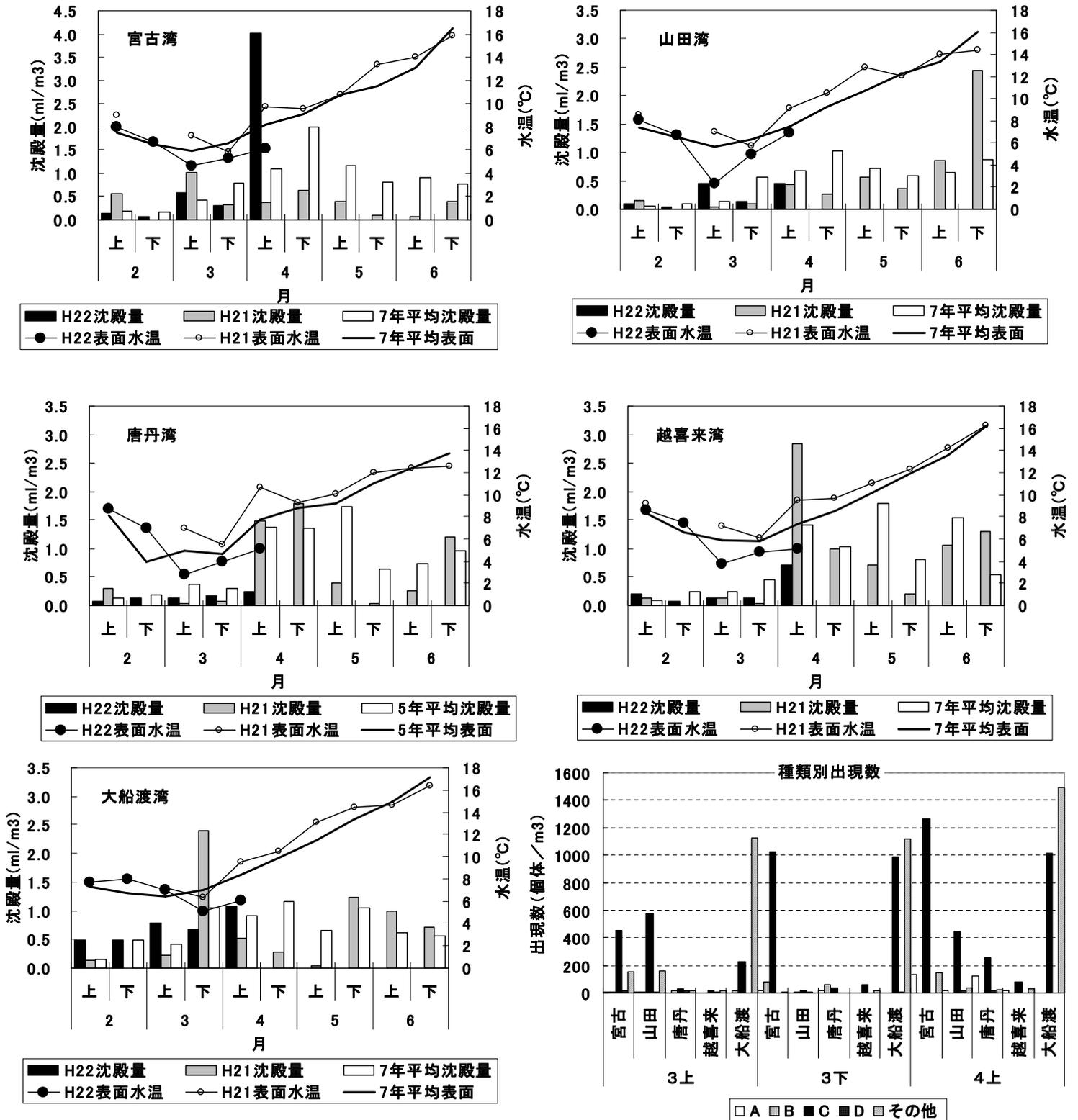


図1 5湾における動物プランクトン沈殿量および種組成、表面水温の季節変化

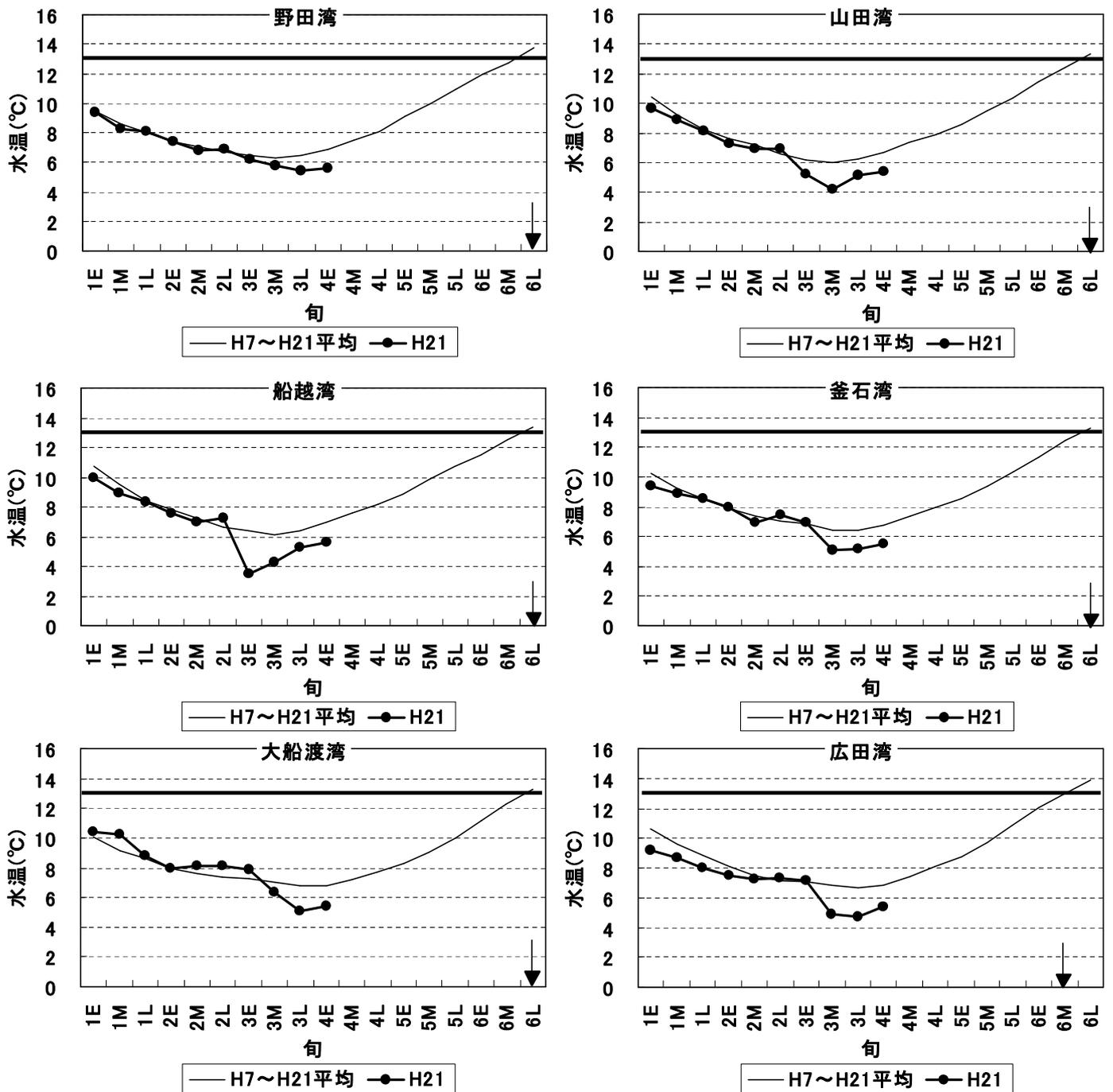


図2 6湾における表面水温の変化 (いわて大漁ナビ 定地水温情報)
 黒い太線は水温 13°C、矢印は水温 13°Cに達する時期。

春期に特徴的に出現するプランクトン4種（いずれも親潮指標種）

A ネオカラヌス・ブルムクルス（もしくはフィレミンジャイ）
Neocalanus plumchrus（もしくは *flemingeri*）



和名なし。
体長2～4 mmで、典型的な親潮指標種。
特に外洋域に多い。

B ユウカラヌス・ブンギ *Eucalanus bungii*



和名なし。
体長2～4 mmで、典型的な親潮指標種。
特に外洋域に多い。

C シュードカラヌス・マイヌータス（もしくはニューマニー）
Pseudocalanus minutus（もしくは *newmani*）



和名なし。
体長1 mm未満で、親潮指標種。
沿岸から内湾域に多く出現。

D テミスト・ジャポニカ *Themisto japonica*



和名 ニホンウミノミ（地方名スムシ）。
体長4～10mmで、親潮指標種。
イサダ漁で混獲され、濃密な群れを形成することがある。